

都市再生整備計画事後評価シート  
洞爺水の駅周辺地区

平成23年3月

北海道洞爺湖町

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	北海道	市町村名	洞爺湖町	地区名	洞爺水の駅周辺地区			面積	75.1ha			
交付期間	平成18年度～平成22年度		事後評価実施時期	平成22年度		交付対象事業費	382百万円	国費率	0.381			
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名									
			基幹事業	道路(芸術文化通り)、地域生活基盤施設(洞爺湖水広場、農・商連携広場、洞爺望洋台)、高質空間形成施設(市街地歩道照明)、高次都市施設(湖ふれあい交流センター)、既存建造物活用事業(芸術文化交流センター)								
	当初計画から削除した事業		提案事業	地域創造支援事業(芸術文化交流センター整備、湖ふれあい交流センター整備、洞爺望洋台環境整備)								
			事業名		削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響					
	新たに追加した事業		基幹事業	高質空間形成施設(水の駅広場イルミネーション)		当地区においてはイルミネーション施設よりも情報案内板の設置など、より事業効果が見込まれる事業が計画されたため。		交通利便性・市街地景観の指標に係るが、数値目標は据え置く				
			提案事業	地域創造支援事業(いこいの家交流機能強化)		他事業で施行するため。		いこいの家来館者数の指標に係るが、数値目標は据え置く				
交付期間の変更		当初			交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響							
		変更										
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ 予定時期	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み			
	指標1	いこいの家・湖ふれあいセンターの来館者数	人/年	61,000	16年度	95,000	22年度	60,000		あり なし	いこいの家改修工事の内容が現施設を維持していくために必要な設備の更新改修となるため、来館者数の増加にはつながらなかった。しかし、温泉施設でも入館者数が減少傾向にある中、いこいの家の来館者は減少傾向に歯止めがかけられているとともに、町外の利用者が増加していることから一定事業効果が現れている。また、湖ふれあい交流センターの来館者は年間数十件ほどではあるが、増加している。	平成24年4月
	指標2	芸術文化作品の展示施設への来館者数	人/年	5,000	16年度	15,000	22年度	3,000	x	あり なし	芸術文化交流センター完成後には従前行われていたビエンナーレ事業が、社会情勢の変化などから実施できなくなったなど影響があり、来館者数は伸び悩んでいる。しかしながら、芸術文化交流センターを主とする他の施設整備により中心市街地におけるイベントの充実や賑わいが創出されており一定の事業効果が現れている。	平成23年4月
指標3	交通利便性、市街地景観の満足度	%	58	16年度	80	22年度	81		あり なし	洞爺水の駅における情報版の整備や望洋台広場の情報版により回遊性が増し、芸術文化交流センターを主とする他の施設整備により、魅力ある洞爺水の駅周辺地区形成が図られたことにより、満足度向上となる効果が得られた。	平成23年4月	
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ 予定時期	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み			
	その他の数値指標1	中央・小公園キャンプ場の入込数	人/年	10500	16年度			13,500			洞爺水の駅、望洋台広場の情報版整備により回遊性が増し、施設での宣伝効果などから、余暇活動の充実が図られキャンプ場の集客増となる効果が得られた。	平成23年4月
	その他の数値指標2	洞爺水の駅の来館者数	人/年	114000	16年度			130,000			洞爺水の駅、望洋台広場の情報版整備により回遊性が増し、芸術文化交流センターも含め魅力ある洞爺水の駅周辺地区形成が図られたことにより集客増となる効果が得られた。	平成23年4月
その他の数値指標3	文化交流施設やイベント広場を中心とした市街地の賑わいにかかる満足度調査	%	-	16年度			83			洞爺水の駅、望洋台広場の情報版整備により回遊性が増し、芸術文化交流センターも含め魅力ある洞爺水の駅周辺地区形成が図られたことにより、中心市街地におけるイベントの充実や賑わいが創出された。	平成23年4月	
その他の数値指標4	道路、広場の整備改善、交通アクセス、交通安全、歩行者の快適性、市街地形成の満足度調査	%	-	16年度			68			洞爺水の駅、望洋台広場の情報版整備により回遊性が増し、市街地歩道照明、道道豊洞爺線の歩道整備や芸術文化通りの整備、各広場の整備により中心市街地における市街地形成の満足度も向上した。	平成23年4月	
4) 定性的な効果発現状況	まちづくり審議会、NPO法人「洞爺まちづくり観光協会」の設立など、地元を主体としたまちづくり活動が活発化するともに、芸術文化交流センターにおける「洞爺湖芸術館友の会」の設立など交付金事業により整備された施設等においても活動団体が設立されており、洞爺湖サミットの開催もあいまって、観光地としての「おもてなしの心」の意識づくりが図られ、今後もより質の高い観光地として成長が見込まれる。 アンケートの自由意見での主な意見 ・毎年来ているが、洞爺地区の水の駅付近は確実に賑わいが出てきている。 ・建物や道路も整備されてとてもよくなっている。 ・小さな町でも頑張っていると感ぜられる。 ・身の丈にあったコンパクトな整備で好感が持てます。 ・芸術館前(芸術文化交流センター)の花畑がきれいであり、町の中も花がいっぱいきれい。											
5) 実施過程の評価			実施内容				実施状況				今後の対応方針等	
	モニタリング		町と地域審議会が協働して、事業成果について評価改善をおこなうためのモニタリングを実施、情報公開を行う。				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				今後の町事業においては、途中経過から必要に応じたモニタリングなど、民意を図るようなことを設けていきたい。	
	住民参加プロセス		洞爺地区地域審議会での意見交換を実施している。				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				地域審議会の活動記録及び議事録で住民参加プロセスの実行状況を確認できるよう継続実施。	
	持続的なまちづくり体制の構築		NPO法人「洞爺まちづくり観光協会」による観光ボランティア活動				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				活動記録により実施状況を把握し、持続的なまちづくり体制の構築や活動の継続を後方支援する。	

## 様式2 - 2 地区の概要

### 洞爺水の駅周辺地区(北海道洞爺湖町) 都市再生整備計画の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値
目標1 洞爺湖の自然や温泉とふれあう施設を設置し、町民と来訪者との交流を図る。 目標2 町が収蔵する芸術作品や郷土資料、歴史の紹介ができる文化交流施設(既存施設の再利用)やイベント広場を中心に市街地の賑わいを創出する。 目標3 道路・広場の整備改善により、交流アクセス、交通安全、歩行者の快適性等、安全・安心な市街地を形成する。	いこいの家・湖ふれあいセンターの来館者	単位:人/年 61,000 H1 6	95,000 H2 2	60,000 H2 2
	芸術文化作品の展示に対する来館者	単位:人/年 5,000 H1 6	15,000 H2 2	3,000 H2 2
	交通利便性、市街地景観の満足度	単位:% 58 H1 6	80 H2 2	81 H2 2
		単位: H		H
		単位: H		H



**まちの課題の変化**

- ・芸術文化交流センターの完成に伴い、町が収蔵する文化資源の展示をするなど、その活用を図ることができた。
- ・いこいの家については、来館者数の減少傾向を下げ止まりする効果を発揮し、満足度も高い数値を示した。キャンプ場の入込が増加している。
- ・水の駅広場等の整備により、洞爺地区の玄関口にふさわしい町の顔と機能を形成することができ、各種イベントを行うのにふさわしい、賑わいのあるエリアとなった。
- ・道道豊浦洞爺線の歩道工事や芸術文化通り、望洋台情報版の整備により施設回遊機能が向上し、また照明整備により夜間の歩行の安全性の確保もされた。
- ・洞爺水の駅を核とし、NPO法人「洞爺まちづくり観光協会」の設立など、地元を主体としたまちづくり活動が活発化した。

**今後のまちづくりの方策(改善策を含む)**

- ・主な基盤整備はほぼ達成できたので、今後は活用及び維持管理について検討する。賑わいの持続の取り組みは、NPO法人「洞爺まちづくり観光協会」による観光ボランティア活動により実施し、町は団体の主体的な活動に対し支援を行う。
- ・芸術文化交流センターの来館者数の増のため、イベント、ソフト事業の展開に努め、ピエンナーレ展覧会のような核となるイベントの復活や、PR活動を行う。
- ・いこいの家の来館者数の増のため、キャンプ客、レジャー客の日帰り入浴取り込みに努め、PR活動を行う。